

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 96
January
2014

International University of Health and Welfare

新春のごあいさつ

高木邦格理事長
北島政樹学長・矢崎義雄総長・金澤一郎大学院長

卒業研究発表会

学生 & 企業研究発表会



◆国家試験に向けた勉強の追い込みのなか、
後輩に残す影絵メッセージに挑戦していた
理学療法学科4年生

国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格



二〇一四年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

国際医療福祉大学は開学より一九九一年には記念行事も予定しております。開学以来、卒業生数は一万四千人を越えました。大変喜ばしいことに、昨年は各種メディアの就職率ランキングで、医療系の私立大学として四年連続全国第一位を獲得することができました。この不況下、ほぼ一〇〇%という本学の就職率は、全国で活躍しているたくさんの方の卒業生や国家資格試験の合格率、質の高い教育力などをご評価いただき、多くの求人をお寄せいただいた賜物と

あらためて感謝申し上げます。

昨年、福岡県の大川キャンパスに開設いたしました「医学検査学科」には、定員を大幅に上回る受験者が集まり、本学に対する期待の高さがうかがえました。現在、大川キャンパスの隣接地に、学生や海外からの研修生の宿泊施設「大川リバーサイドホテル」を建設中で、今春の完成を予定しております。さらに、国際医療福祉大学・高邦会グループ一〇〇周年の地域貢献事業の一環として、大川市に文化と福祉の複合施設「おおかわ地域交流プラザ」を建設中です。質の高い幼児教育や病児保育などの子育て支援施設と高齢者の健康増進施設に加え、四〇〇席規模の映画館・コンベンションホール・レストラン・書店なども併設した九階建ての当施設は、来春の竣工を予定しております。

附属・関連施設につきまして、まず栃木県の国際医療福祉大学病院では、昨年一月より栃木県北で初となる心臓外科手術を開始いたしました。最新鋭の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」を使った前立腺がん、胃がんの手術も順調に稼動しております。

東京都の山王病院におきましては、昨年七月より隣接地での新棟建設工事が始まり、来年の一月には、地下二階・地上五階建ての新棟の中に一九床の産科クリニックを併設し、産科・リプロ

ダクシオンセンターの機能充実のためのNICUを新設いたします。また、手術室も二室増設し、低侵襲手術センターとICUを新設するとともに、リハビリテーション室の拡充なども予定しております。

千葉県化学療法研究所附属病院におきましては、昨年四月に医療機関としては数少ない公益財団法人の認定を受けることができました。六月には新棟が完成し、既存の結核病棟および療養病棟に加え、回復期リハビリテーション病棟を新設し、予防医学センターもリニューアルいたしました。

福岡県の高木病院につきましては、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を設置した手術室の増設、救急外来の拡充、HCUの新設など、急性期分野やリハビリテーション部門を拡充すべく、昨年より急性期棟（G棟）の建設に着手いたしました。本年八月の竣工を予定しており、福岡県におけるがん拠点病院の指定取得をめざし、高度ながん治療、緩和ケア医療に注力してまいります。

グループの新しいプロジェクトをご紹介します。まず、二〇一六年四月に二学部五学科の新キャンパスを千葉県成田市に新設いたします。看護学部・看護学科、保健医療学部・理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科を設置する計画で、千葉

県における医療専門職不足解消への貢献をめざしてまいります。また、規制緩和による医学部新設を盛り込んだ国家戦略特区「国際医療学園都市構想」を、成田市と共同で政府に提案いたしました。これが認められた場合、千葉県などにおける地域医療の担い手になり、かつ国際舞台で活躍できる医師を養成してまいります。

さらに、三年後の二〇一七年には、東京都港区の旧赤坂小学校跡地に、看護学部の新設と大学院のキャンパスを設置いたします。特に災害対応を強化し、災害看護・災害リハビリテーションの研究等を行う「災害保健医療研究センター」を設置するとともに、地域の方の生活支援を目的とした保育園・病児保育施設や通所リハビリテーション、健康相談室等を併設し、地域交流施設として一〇〇〇人規模のホールやカフェ&ストアも新設する予定です。

さまざまなプロジェクトがございますが、本年もグループの教職員が一丸となって取り組んでまいります。最後に、新たな一年が皆様方にとつて充実した、よき年でありますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学学長 北島 政樹



新年を迎えるにあたって一言ご挨拶を申し上げます。東日本震災の復興がまだ完全になされていない最中、第二次安倍内閣が発足し、世の経済不安を払拭すべくアベノミクスが策定されました。すなわち「財政出動」、「金融緩和」、「成長戦略」の三本の矢であります。

その中で本学とも関連する成長戦略のひとつ、「国家戦略特区の設置」は、千葉県成田市において、戦略特区構想以前から医科系大学・成田国際空港を核とした「医療産業集積構想」を策定しており、将来ビジョンを視野に入れたグローバル化時代の人材育成を軸として、医学部の誘致を基本的目標としております。

成田市が策定した綿密な構想が本学のめざす理念と合致し、二〇一一年より真摯に議論を重ねてまいりました。まず両者の合意事項として二学部五学科（看護・

理学療法・作業療法・言語聴覚・医学検査）の開校を二〇一六年四月にめざし、さらに規制緩和により医学部が認められた場合の「成田メディカルセンター（仮称）」の整備も検討が進められてまいりました。これらを想定し、本学では二〇〇九年より学内外の有識者による国際基準に則した医学教育の検討・勉強会を立ち上げ、また先進的な海外の医学教育の視察などを積極的に行ってまいりました。さらに二〇一七年四月には、旧赤坂小学校跡地に医療福祉の研究・教育を介して本学の理念でもある世代を超えた「共に生きる」生活拠点を整備することになりました。これは、看護学部新設と大学院移設を主事業とし、特に「災害看護」、「災害リハビリテーション」の創設をめざすものです。

さて、学内に目を向けると、二月には教員の持つ診断・治療機器のシーズの製品化をめざし、医療企業と合同で恒例となった「第四回国際医療福祉大学技術情報交流会」が開催され、車椅子体重計、介護用計量スプーンなどが製品化され、体幹器具などの特許申請が行われました。

さらに大学評価基準のひとつでもある文部科研究費・厚労科研究費の獲得は重要であり、そのため研究協力センターにおいて応募課題の送付を積極的に行い、また申請書の記載に関して審査員・申請者の立場から毎年説明会を開催してまいりました。その結果、次年度に向

けた申請数が文部科研究費一四三件（前年比一二二%）と着実な成果を示しました。また、昨年比二〇〇%を超える伸びを示した厚労科研究費では、本学が強みとする医療の研究開発分野の応募が本年は見送られており、応募の再開を期待しております。

科学研究費獲得の成果として、大学教育充実のために「昨午行った戦略的大学支援プログラム「仮想病院の構築」に引き続き、今年度は改革総合支援事業として、①建学の精神を生かした大学教育の質向上②特色を發揮し地域の発展を重層的に支える大学づくり③産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究」が採択されました。前述のごとく教育・研究環境・施設の充実とともに重要なことは、これらの成果を全キャンパスの教職員が共有することでありです。

この目的により創設された「国際医療福祉大学学会」も第三回を数え、内容も充実してまいりました。昨年は特に、「医療福祉の原点を再考する『QOL (Quality of life)とQOD (quality of death)』をメインテーマに掲げ、医療福祉の多様な専門職が一堂に会して活発な議論と発表を行いました。こうした学会を介して各キャンパスの教育・研究・診療の情報共有が推進されてきましたが、現在では大学における各種委員会の協議は四キャンパス間で連携して行われ、すべての情報を共有することが可能となりました。学長への就任と同時に私が掲げた「各キ

ャンパスが一堂に会す」という目標が達成されたと充実感を感じております。こうした大学の変革と同時に、「第四回キッズスクール」を開催し、福島県からは一〇名の中学生を招待いたしました。参加者全員が目を輝かせて、将来の医療福祉職を想定し実技に励んでいました。参加者全員が目を輝かせて、「第三回幸齢者スクール」では、セルフケアの重要性を実地体験から学んでいただきました。また、恒例の「高校生作文コンテスト」を昨年開催し、一五四三件の応募作品から医療福祉に対する理解と、自己体験から将来の医療福祉の専門職をめざす意気込みが感じられ、望外の喜びでありました。

さて、本年は二回目の認証評価があります。皆様と叡智を結集し、本学の教育・研究の発展に努力する所存でございます。

特集1 新春のごあいさつ

- 2 国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格
- 3 国際医療福祉大学学長 北島 政樹
- 4 国際医療福祉大学総長 矢崎 義雄
- 5 国際医療福祉大学大学院長 金澤 一郎

学位記授与式・入学式日程

特集2 卒業研究発表会

特集3 学生&企業研究発表会

キャンパスレポート

- 8 小田原キャンパス
- 9 福岡キャンパス
- 10 大川キャンパス
- 11 大学院
塩谷看護専門学校

施設インフォメーション 新春のごあいさつ

- 12 国際医療福祉大学病院病院長 蘇原 泰則
国際医療福祉大学塩谷病院病院長 早川 正道
国際医療福祉大学三田病院病院長 小川 聡
国際医療福祉大学熱海病院病院長 寺岡 慧
- 13 国際医療福祉リハビリテーションセンターセンター長 下泉 秀夫
新宿けやき園施設長 杉原 素子
山王病院病院長 堤 治
化学療法研究所附属病院病院長 西野 卓
高木病院病院長 岩坂 剛

施設インフォメーション

- 14 国際医療福祉大学塩谷病院
国際医療福祉大学病院
国際医療福祉大学三田病院
国際医療福祉大学熱海病院

トピックス

- 15 国立ヤンゴン第一医科大学および国立ヤンゴン医療技術大学との学術交流協定締結/国際交流親善パーティ/大田原市長と留学生の懇談会/大田原マラソンに57名が運営ボランティアとして参加
- 16 TOEIC公開講座/本学初の「学生が選ぶグッドティーチング賞」発表
- 17 携帯型脳波計を活用した地域連携事業の展開/国家試験合格社行会
留学生紹介コーナー
- 18 同窓会通信
- 19 生涯学習のご案内
- 20 学生投稿ページ

【平成25年度 学位記授与式】

■学部/大学院 学位記授与式

- ・大田原キャンパス=学部/大学院
平成26年3月12日(水) 10:20~ 体育館
- ・小田原キャンパス=学部/大学院
平成26年3月14日(金) 10:00~ 体育館
- ・福岡キャンパス/大川キャンパス=学部/大学院
平成26年3月10日(月) 14:00~
福岡国際医療福祉学院 体育館

■大学院 学位記伝達式・修了生歓送会

- ・東京青山キャンパス(東京青山/小田原/熱海)
平成26年3月15日(土) 16:30~
東京青山キャンパス

■卒業式

- ・塩谷看護専門学校
平成26年3月4日(火) 10:00~ 講堂

【平成26年度 入学式】

■学部/大学院 入学式

- ・大田原キャンパス=学部/大学院
平成26年4月2日(水) 10:20~ 体育館
- ・小田原キャンパス=学部/大学院
平成26年4月4日(金) 10:30~ 体育館
- ・福岡キャンパス/大川キャンパス=学部/大学院
平成26年4月5日(土) 11:00~
大川キャンパス 講堂

■大学院 新入生歓迎会

- ・東京青山キャンパス
平成26年4月6日(日) 13:00~
戸田ビルディング青山

■入学式

- ・塩谷看護専門学校
平成26年4月7日(月) 10:00~ 講堂



国際医療福祉大学総長

矢崎 義雄



新年を迎え、一言ご挨拶申し上げます。皆さんは、この年末年始をご家族、あるいは故郷で友人と楽しく過ごされ、絆をきつと深められたこと存じます。

国際医療福祉大学は一九九五年の開学以来、今日まで優れた医療福祉職としての人材を育成し、社会貢献することをめざして教育にあたってきました。まもなく開学二〇周年を迎えて卒業生数は一万四〇〇〇人を超え、医療と介護、福祉のさまざまな領域で、リーダーとして第一線で活躍されています。

そして今後も、総合的な医療人を育成するという本学の社会に果たす使命は、ますます重要になると思われれます。それが、わが国では少子高齢化が急速に進み、昨年には人口に占める高齢者の割合が二四%を超え、国民の約四人に一人が高齢者という超高齢社会になったことから明らかです。加えて、著しく延びた平均寿命と健康寿命との差が一〇年余りあり、

その間高齢者が、病気や障害を持ちながら地域で生活を送らざるを得ない状況になっているからです。その結果、今年、認知症を含め日常生活で介護保険サービスを利用した人は約四七七万人だったのが、団塊の世代がいわゆる「後期高齢者」になる二〇二五年までに、さらに一八〇万人以上増加すると予測されています。

このように急激に増加する医療・福祉・介護のニーズに適切に対応するには、看護師やリハビリテーションスタッフなどの医療福祉専門職が、二〇二五年までに一一〇万人以上必要とされています。その人材の育成と効率的で質の高いサービスの提供が、今日最も重要で喫緊な社会的課題になっています。

超高齢社会を迎えて、皆さんが大学で修得された知識と技術、そして病める方や障害を持った方に寄り添うところを実践に生かして活躍できますように、将来の開かれた道をめざして勉学に努めてください。

皆さんの活躍する場は、従来の病院医療だけではなく、今後さらに増加する高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごせるように、包括的にケアができる環境の整備が進められています。そして、皆さんが積極的にこのようなプロジェクトに参加されるのが期待されています。そこでは本学がめざす「チーム医療・チームケア」の教育の真価が必ずや発揮されることになるでしょう。

新年にあたって、皆さんの一層のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。

国際医療福祉大学大学院長

金澤 一郎



二〇一四年の始めにあたり、皆様一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、年始めに港区が実施しました旧赤坂小学校の跡地の利用に関する公募型プロポーザルに応募し、見事に採択されたことから始まりました。すでにご承知の通り、青山周辺に分散している大学院関連の施設を赤坂の地に集約することが決まっています。また、この機会に大学院の機能を飛躍的に高めるとともに、院生数もまた、飛躍的に増やす計画です。

こうして、我が大学院は二〇一七年四月には、赤坂の地で第二の出発をすることになりました。なお、この赤坂には新しい大きなビルが建つ予定ですが、そこには区民のためのいざという時の避難所や待避所など、災害時への配慮があります。健康なうちに身体を整えたいと考える方々への配慮もなされていて、いわゆる「コミュニケーション・コモン」といった役割も備えている、極めて現代的でユ

ニークなものになると思います。

昨年の終わり頃になってこの赤坂の建物に関する具体的な問いかけがありました。実は私は、赤坂への移転の話が起る前から本学の大学院の新しい構想を練り始めていました。ちょうどよい機会ですので、それをさらに膨らませることにしました。詳細はまたの機会に示しますが、基本的な考え方は、これまでの「医療を支える科学」と「福祉・介護に向けた科学」のほか、「健康のための科学」を構築し、さらにこの三つの科学を広く支えるものとして「国際化」と「政策化」という本学の使命がある、というものです。特に「健康のための科学」はこれまで本学にはありませんでしたから、新たな枠組みとして力を入れたいと思っています。幸いにも、昨年「国際医療福祉総合研究所」(中村秀一所長)が大学院の附属機関として位置づけられましたので、そこで「政策化」は担当してもらおうと思っています。赤坂への移転とともに、こうした構想の具体化が今年のひとつの大きな課題です。

もうひとつの今年の課題は、「国家戦略特区における医学部新設」が成田市で認められるかどうか、ということでしょう。昨年の二月七日に「国家戦略特区法案」が参議院で可決され、医学部新設の地固めはできています。固唾を飲んで政府の発表を見守っているところですよ。

このように、今年は本学が大きく飛躍するために非常に大事な年であると思えます。力を合わせて頑張りましょう。

卒業研究発表会

大田原キャンパス 視機能療法学科

二月七日、視機能療法学科の第九期生の卒業研究報告会が行われた。三年次後期後半より五班にわかれて学生自ら研究テーマを設定し指導教員と相談しながらおよそ一年間、実験計画を練り、予備実験をしながら試行錯誤し、本実験に取り組み、実験結果を検討した成果を発表していた。五研究班から九件の研究課題について発表があった。三年生を中心に全学年の学生が出席し、今回は一年生も多数参加していた。学生たちから質問が多数寄せられ活発な討論がなされた。

研究の課題は、視標呈示に工夫を凝らした視覚誘発電位や、情動喚起画像を用いた瞳孔や瞬目反応に関する研究など、中枢神経系にかかわる研究から、不鮮明な文字の読書能力に与える影響、飲水や飲酒が眼圧に与える影響、コンタクトレンズケア指導の効果、3D映像視聴が瞳孔に与える影響に関する研究など、視覚機能検査やさまざまな負荷が視機能に与える影響についての研究であった。

どの班も研究の醍醐味を味わったことが同え、卒後の活躍が期待される。



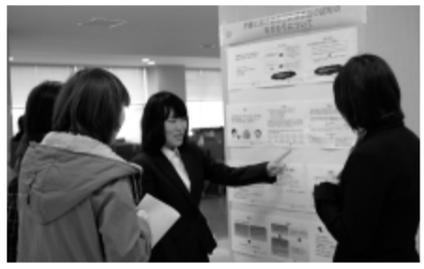
(教授 山田徹人)

●発表を終えての集合写真

大田原キャンパス 言語聴覚学科

二月二五日、那須アスリーナ二階の学生ホールにて、言語聴覚学科の卒業研究発表会が行われた。今年度は多くの学生が積極的に卒業研究に取り組み、事前の口頭審査を経て二六題の発表が行われた。内容は言語聴覚障害に直接関係するもののほか、近赤外線分光法を用いたもの、アジア各国の言語聴覚士の実態調査、親の子育て観などの調査、嚥下機能改善を目的とした歌の作成など、多岐にわたった。多くの発表を閲覧できるように、本学科では初のポスター形式での発表会となった。

発表会には三年生と四年生が参加し、自由に興味のあるポスターを閲覧したが、口頭発表形式よりも気軽に質問ができるためか、三年生も臆することなく積極的に質問する姿が見られ、学会さながらの活気あふれる発表会となった。事後のアンケートからも「興味深い発表ばかりで時間が足りなかった」「自分では思いつかないテーマについて研究をしていて勉強になった」など多くの意見が寄せられ、



●活気あふれるポスターセッション会場

意欲的に取り組んだ様子が見え、卒業研究に取り組んだ四年生は、臨床実習や国家試験勉強と両立しながら、自分の決めた研究テーマを追求し形にすることができ、達成感を感じることができただろう。質疑応答も自信に満ちた様子で答えていた。

今まさに来年度の卒業研究を開始しようとしている三年生にとっても、研究のヒントを見つけることができ有意義な発表会となった。自分の発表内容だけでなく、卒業研究を行っていくうえでのアドバイスをしてくれる先輩もいて、三・四年生のつながりを深める良い機会にもなった。テーマの決定に始まり、先行研究の検索・計画の立案・データの収集・結果のまとめ・考察・論文作成という一連の流れを通して、研究を行っていくうえで大切な視点を養うことができただろう。卒業してから言語聴覚士として臨床をしていく際も研究的な



(助教 相川倫)

第10回 学生&企業研究発表会

二月七日、栃木県宇都宮市の宇都宮大学陽東キャンパスで、「第10回学生&企業研究発表会」が開催された。これは大学コンソーシアムとちぎが主催し、産学官の連携を深め、地域と社会に貢献する学生主体の研究発表会で、栃木発のユニークな議論の場である。「ものづくり」、「食・農・環境」、「人文社会経済芸術」、「医学・医療福祉」の四つの分野でアイデアを競う。

午前中に行われた分野別の研究発表審査会に続いて、午後は各賞の選考会と表彰式が行われた。本学からは、「食・農・環境分野」にチーム、「医学・医療福祉分野」に七チーム、ポスター発表に三チームの合計二チームがエントリーした。最優秀賞(知事賞)は「人文社会経済芸術分野」から「ともしびプロジェクト」被災地に希望の光を灯し続けよう」を発表した宇都宮大学の学生が受賞したが、本学のチームもよく健闘し、「医学・医療福祉分野」で金賞・大学コンソーシアムとちぎ理事長賞を受賞したほか、協賛機関の冠賞のひとつである栃木県経営者協会賞、さらに、「食・農・環境分野」では日刊工業新聞モノづくり地域貢献賞を受賞した。(以下、受賞者敬称略)

金賞・大学コンソーシアム とちぎ理事長賞

【医学・医療福祉分野】

「社会貢献を目指した適正飲酒の推進
〜基礎研究から
飲酒に関する
調査まで〜」

■薬学科五年
桑原玲奈
(発表者)・
野村和・
藤岡賢三・
吉成宏顕



栃木県経営者協会賞

「大田原市特産ウド緑葉の抗酸化活性を
活用した
”と〜くんウド
甘酒”づくり」

■薬学科五年
小松琴音
(発表者)・
山野下翔斗・
荒川由実・
岩淵真鈴・
吉田尚弘



【食・農・環境分野】

日刊工業新聞 モノづくり地域貢献賞

「茂木町特産エゴマの葉を使った
機能性紅茶”ジユウネン”もて茶”の開発」

■薬学科五年
吉田尚弘
(発表者)・
荒川由実・
岩淵真鈴・
小松琴音・
山野下翔斗

■理学療法学科四年
岡野倫明(発表者)・佐久間達生・佐藤千葉大佑・堀金悠太

「呼吸の方法が及ぼす筋活動の影響」

■理学療法学科四年
中村康平(発表者)・飯塚麻妃・千代田佳恵・八木孝洋・八木澤友未

「海馬ヒストンAセチル化はストレス抵抗性と適応形成の共通因子か？」

■薬学科五年
松島恵(発表者)・大和田悠理・栗山麻衣・佐藤朱美・佐藤詩織・佐藤那美

「身体機能の推定における呼吸機能の有効性」

■理学療法学科四年
佐々木洋平(発表者)・大和久詩織・木下皓太・佐々木友美



【医学・医療福祉分野】

奨励賞

「偏平足に対する新たなアプローチ
―角速度センサを用いて―」

■薬学科五年
安西奈緒美(発表者)・島佐和子・高井彩香・高橋久美

「ストレス適応障害に対する抑肝散の改善効果とその作用メカニズムの解明」

■薬学科五年
手塚千裕(代表者)・藤田朋加

■薬学科六年
天谷隼也・飯村直史・岡田愛・木村祐介・松本諒子

「高齡者に対する予防支援型リハビリテーションプログラムの転倒を抑制できるか？」

■理学療法学科四年
渡辺敦美(代表者)・豊留愛弓・池田安香音・朽木涼・鈴木拓弥・高橋真

「オキサリプラチン誘発性末梢神経障害に対する牛車腎気丸の効果および作用メカニズム解析」

■薬学科五年
藤田朋加(代表者)・手塚千裕

■薬学科六年
天谷隼也・飯村直史・岡田愛・木村祐介・松本諒子
(大田原キャンパス 総務課 豊島功)

【ポスター発表】

奨励賞

「ラット抗体フラグメントライブラリーの構築と腫瘍壊死因子α(TNFα)を認識する抗体分子種の探索」

■薬学科五年
安西奈緒美(発表者)・島佐和子・高井彩香・高橋久美

「ストレス適応障害に対する抑肝散の改善効果とその作用メカニズムの解明」

■薬学科五年
手塚千裕(代表者)・藤田朋加

■薬学科六年
天谷隼也・飯村直史・岡田愛・木村祐介・松本諒子
(大田原キャンパス 総務課 豊島功)

第29回 小田原

キャンパスレポート

留学生交流会



●寺岡学部長とともに

一二月五日、本キャンパス八階ラウンジで第一回留学生交流会が行われた。昨年度、初めての留学生を迎えた本キャンパスは今年度二名の留学生を迎え三名になり、留学生同士や教職員との親睦を深めることを目的として、企画から準備・進行まで留学生が行った。



寺岡学部長をはじめ、学科長、教職員が一五名参加した。初めての試みだったが、一八名という少人数の交流会が幸いし、留学生の挨拶、全員の自己紹介やゲーム、飛び入りでの教員のライブや、留学生が準備した母国の食材が話題になるなど、

アットホームな会になった。今後も留学生数は年を追って増えていくと思われ、留学生交流会は今後名称や規模を改善しながら継続の予定である。



●アットホームな雰囲気

(学務課 国際係 佐藤浩子)

スポーツ大会

二月七日、小田原市立城山中学校のグラウンドを会場に第八回スポーツ大会が開催された。昨年は開始直前に雨に見舞われるなど、天候に恵まれなかったが、今年は一二月とは思えないほど暖かい陽気の中での開催となった。



●学科の意地とプライドをかけた学科別リレー

過去のスポーツ大会を振り返ると、サッカーなど専門性の高い種目が選ばれたが、今年度は学生全員が楽しめるようにと、大縄やリレーなどが実施競技として採用された。

優勝 理学療法学科
準優勝 作業療法学科
三位 看護学科

本学部の取り組み

第19回 福岡

キャンパスレポート

福岡看護学部の学生が看護師国家試験を受験するのは、今年度で二回目となる。本学部一期生が受験した昨年度の看護師国家試験合格率は、全国平均を上回ったものの、残念ながら全員合格を達成することができなかった。今年こそは国家試験全員合格を必ず達成するために、学生と教職員が一体となって国試対策に取り組んでいる。

看護師国家試験とは

看護師になるには、厚生労働省の指定を受けた養成機関で三年以上の教育を受け、国家試験に合格しなければならぬ。本学の場合、看護師のほかに保健師の養成機関として厚生労働省の指定を受けており、卒業時に看護師と保健師の国家試験を受けることができる。看護師国家試験は、毎年二月中旬（今年は一六日）の日曜日に行われ、合格発表は三月下旬（今年は一五日）にある。保健師国家試験は看護師国家試験の二日前の金曜日に実施され、発表は看護師と同日である。看護師国家試験合格率の平均は、ここ一〇年間、毎年約九〇%前後である。

本学部では国家試験合格率一〇〇%を達成するために、一年次から資格取得に直結した授業や質の高い臨床実習を行い、確実な実力を身につけることができるカリキュラムが準備されている。まずは四年間を通して日々の「授業」と「実習」を大切にすることと考え、実践している。さらに少人数の学生を経験豊富な専任教員がフォローし、徹底して国家試験「全員合格」にこだわる体制も整備している。では、具体的な本学部の取り組みを紹介する。本学部では学生が自律的・主体的学習態度を身につけ、計画的に学習を進めることができるよう、国家試験対策のためのチームを組織している。学生からは代表として国家試験対策委員が選出され、教員と事務職員が加わり、三者が一体となって特別講義や補習、模擬試験の日程などの計画を立て、運営していく。



●学生ラウンジでの自習風景

国家試験対策の学習は、学生同士が約一〇名程度で少人数のグループを構成し、お互いに支え合いながら情報交換をし、重要課題を共有したり、弱点の克服を行ったりすることを基本としている。このグループは卒業研究を行うグループによって編成されており、各グループに担当

過去のスポーツ大会においても、学生の楽しむ姿は多く見られたが、今年度は例年にも増して学科の「団結力」が垣間見えるスポーツ大会となった。



●スポーツ大会実行委員のみならず、お疲れ様でした!!

(学務課 学生係 下田岳史)

防災訓練

本キャンパスでは、いざという時のために防災訓練に力を入れており、年に二回の防災訓練を実施している。

後期の防災訓練は二月一七日に実施し、一年生一五五名、教職員三二名が訓練に参加した。まず、火災発生時の通報訓練、初期消火訓練、避難訓練、点呼と報告の手法の確認を行った。そのあと、小田原消防署・南分署の署員より、消火器の性質や使い方の説明を聞き、実際に水消火器を用いて、消火器の使用法や初期消火の方法を



●消火器の使用方法を学ぶ

の教員が配置され、国家試験対策の学習指導に加えて就職に関する指導や助言を行う仕組みとなっている。

国家試験の対策は、入学した時点から始まっているのは言うまでもないが、学生が最初に国家試験を自分のこととして切実に意識するのは、三年次の夏に行われる模擬試験を受験する時からはないだろうか。この時に自分の実力が客観的に示されることになるので、結果の出ない学生は大きな危機感を持ってその後の学習に臨まなければならない。

三年次の冬休み前には、国家試験の概要と対策についてのオリエンテーションが行われ、国家試験対策はここから本格化していく。

学生それぞれの実力や到達度、弱点分野を確認するためには模擬試験の存在が非常に重要である。実施時期を慎重に設定したうえで、業者による模試を九回と、教員が過去問題などを中心に作成した学内模試を七回、三年次の三月から国家試験本番直前まで続けられる。各回の結果はタイムリーに学生本人と指導教員にフィードバックされ、その後の学習に役立てられる。この間、教員による対策講義や補習に加え、外部業者による対策講義も実施され学力の底上げを図っている。

教員による対策講義や補習には、大川キャンパスの専任教員も加わって領域ごとの強化、必修問題対策や弱点強化、さらに保健師国家試験対策などが五日以上に渡って繰り返し実施され、本番直前まで続けて行われる。模擬試験の結果によって、成績が伸び悩んでいる、いわゆるDクラスの学習強

体験した。関東地方の冬季は、空気が乾燥し、火災が発生しやすい気象条件となる。普段から、いざという時に対応できる心構えを常に準備しておきたい。

(総務課 高久晃)

ポラントニア活動等表彰式

本キャンパスでは、ポラントニア活動を推奨するとともに、共に活動する仲間を輪を広げることが目的とした、ポラントニア活動等表彰制度がある。

平成二五年度の表彰式が一月一九日に潮風祭（大学祭）の中で行われ、今年度は一三団体が表彰を受けた。ポラントニア活動等を行った学生は、ポラントニア活動の内容についてポスターを製作し、潮風祭で来場された方々に見ていただいた。今年度発表されたポラントニア活動は、東日本大震災やタイの洪水のポラントニアといった自然災害の復旧に関するポラントニアから、駅での献血の呼びかけ運動や音楽療法のお手伝いといった地域での活動まで、幅広い内容であった。



●ポラントニア活動等表彰式

今後も、学生のポラントニア活動が活発に行われることを期待したい。

(総務課 高久晃)

化対象者についての対応は、全員合格を達成するうえで最も重要な取り組みとなるために、慎重かつ徹底的に手を入れていくこととしている。九月、一〇月、十一月の期間、対象者は正当な理由なしに欠席することを許されず、教員が作成した基礎的な問題を解き、合格点を得るまで繰り返し学習することを義務づけている。ここで自らの現状を把握し、効果的な学習方法を身につけて、これからの学力の伸びを促している。

また、年明けの一月四日に実施された模擬試験の結果をもとに学習強化対象者を再びピックアップし、フォローする。指名された学生は、朝の九時までの登校を義務づけられ、指導教員に一日の学習目標を提出する。目標に従って自己学習を行った後は、到達度評価を行い、一日を振り返る。指導教員は対象学生の出席と目標の確認を行い、学生からの質問を受け、あわせて相談、助言を行い、これを本番の前日まで実践して、最後の最後まで寄り添い、激励して合格へと導く。

この間も、グループ単位での学習は継続されており、教員と学生が一体となって過去問題を解き、教え合い、疑問点をディスカッションして問題の解決を図る中で団結が深まり、全員がひとり残らず合格するんだ、という意識が高まる。このようなグループ単位での活動や学生一人ひとりへの個別指導を徹底し『国家試験全員合格』のための万全のサポートを行っている。今年こそ一丸となって全員合格を勝ち取りたいと強い意志を持って臨んでいる。

(九州地区広報室 神塚泰史)

第33回 大川

キャンパスレポート

韓国・建陽(コニャン) 大学から教職員と 学生が来日!



平成二六年が本格的に始動した一月六日、大川キャンパスに、韓国の建陽大学(大田市)より、物理治療学科一九名(二年生)および引率教員一名が、施設見学と学生間交流を目的として二週間滞在した。昨年度から、関連施設での実習や学生交流を活発化するねらいで、宿泊拠点を大川キャンパスに隣接する関連病院の宿泊施設として、現在大学に隣接した敷地に建設中の大学宿舎施設(大川リバーサイドホテル)が本年三月には竣工となるため、来年度からは新しい宿泊環境でより利便性に富んだ研修ができるものと期待している。



●建陽大学のみなさんと

トトさせた。黒澤和生理学療法学科長の講義に続き、一時より辻貞俊福岡保健医療学部長、黒澤学科長や理学療法学科の教員出席のもとで、歓迎会が行われた。この研修のねらいは、リハビリテーションを修学し始めた韓国の学生に、日本のリハビリテーション現場の見学や同年代の本学学生との交流を通じて、相互の医療の相違を学ばせ、将来にわたる医療の互恵関係の礎を構築することと考える。本研修では、日本の医療福祉や理学療法についての特別講義、高木病院をはじめとする本グループの施設見学を通じて、日本の医療現場における急性期から維持期の理学療法について理解を深めてもらう予定である。さらに、本年度は「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」の助成を受け研究機器を整備したこと、教員間での研究交流も加速化できるものと考えている。

来日初日は、博多港から本校に直行した学生および教員に対し、大川キャンパスで軽食をとりながらオリエンテーションを行い、翌日の朝九時より研修をスタートさせた。

一方、学生交流の一環として、休日に大川市や福岡市の歴史探索を行い、餅つきやたこ焼き、お好み焼きなどの日本の食文化も体験し、同じ志を持つ学生同士が心ゆくまで交流できるプログラムを考えている。帰国前日の一月一六日には修了式を行い、辻学部長より学生各人に修了書が手渡された。

本年度は、引き続き一月二〇日から建陽大学の理学療法学科、作業療法学科の三年生と仁済(インジエ)大学(金海市)の物理治療学科、作業療法学科の三年生が臨床実地実習と学生間交流を目的として四週間の日程で来福の予定である。

(九州地区国際交流委員長 後藤純信)

台湾・元培(ゲンバイ) 科技大学からも 教職員と学生が来日、 学生間で交流



一月一五日、台湾の元培科技大学および台湾健康管理学会と本学との学術交流の一環として、同大の蔡雅賢常務理事(台湾健康管理学会理事長)を含めた教職員一〇名と学生一一名が来学した。一行は、まず大川キャンパスに到着。辻学部長が「二〇一〇年から本学が研修でお世話になっている元培科技大学は、台湾で医療技術の学部を持つ初めての高等教育機関です。日本の保健医療を担うべく学生たちが勉学に励む本学と互いに研修を重ね、共に発展しましょう」と歓迎の挨拶で出迎えた。続いて



●台湾・元培科技大学のみなさんと

「この後、教職員は高木病院や研修の宿泊施設となる大川リバーサイドホテル、柳川リハビリテーション病院などを見学。学生たちは、理学療法学科や作業療法学科の学生たちとの文化交流会に出席し、折り紙やくす玉作りに挑戦、歌やダンスを披露した。昼食会を兼ねた歓迎式典では、元培科技大学の学生を代表して、応用英語系の施美芳さんが「私たちの大学は普段から国際交流をとっても重視していて、そのおかげで国際的な視野が広がられます。今日のおもてなしでは寒い冬なのにみなさんの熱さが感じられ、心がぽかぽかしてきました」と、医務管理系の黄銘さんが「みなさんと交流できて幸せです。日本文化に興味を持っているので、もっと日本の友だちをつくりたい」と挨拶。夜は、高木邦格理事長主催の晩餐会も開催され、両大学間の交流をさらに深めた。

●本学部学生との文化交流会で

の村上充子看護部長から祝辞をいただき、校歌を合唱して閉式した。これからの長い人生、さまざまな困難にぶつかるが、この日の感動と誓いを思い起こし、しっかりと考えたものに突き進んでくれることを願う。

(九州地区広報室 帆足リエ)

第3回 大学院 キャンパスレポート

研究報告会(修士・博士)開催

大学院の行事として大切なもの「研究報告会」がある。毎年、修士課程一年は一月、二年は六月、博士課程は一年、二年ともに二月に開かれるのが恒例だ。今年度も一月三日に修士課程一年、一二月八日に博士課程一年・二年の報告会が開かれた。



●挨拶に立つ金澤大学院長

医療経営管理の院生は一番目の報告から続くのではなく、一番目、八番目、九番目とわかれることになった。より幅広く院生の参加を促すのがねらいだ。

博士課程報告会

一二月八日に開かれた博士課程の報告会では、午前九時から金澤一郎大学院長が挨拶し、「一年はデビュー戦であり、二年は学位に達するのかもしれないという厳しさを迎えている。博士課程に学んだからには、是非到達してほしい」と院生たちにエールを送るとともに、論文の前提として文章力をつける必要性を強調した。博士課程の報告会も一人七分の報告と五分の質疑であることは修士課程と変わりはないが、研究の枠組み・方法の妥当性や臨床への応用など、より緻密な過程が求められ、「その方法で結論を導き出せるのか」など質疑応答も活発に行われた。



●「その方法で結論を導き出せるのか」など質疑応答も活発に行われた。

第11回 塩谷看護 専門学校 キャンパスレポート

第3回「看護の誓いの式」

一二月一三日、「看護の誓いの式」が厳かに行われ、実習関連施設の看護部長様のほか、在校生や保護者などが見守る中、これから看護実習に取り組み一年生四〇人が、看護師の道への心構えを新たに誓った。

照明が消され、担任から名前を呼ばれた学生がひとりずつ灯をナイチンゲール像から自分のロッソクに移し、壇上へ上がり、全員が「ナイチンゲール誓詞」を唱和した。その後、病める人に奉仕する決意を込めて会場内を巡回し、灯を自分の手で消した。江口光興学校長の式辞の後、丸山仁司国際医療福祉大学副学長、国際医療福祉大学塩谷病院



●会場は幻想的な美しさに包まれた

「八汐祭」

一月三〇日、「八汐祭」が盛大に開催された。今年、「赤ちゃんの成長をのぞいてみよう」というテーマに沿って、食事の提供や展示が行われた。また、今回は、矢板市のご協力を得て矢板市キャラクター「ともなくん」ともなりくんが来場し、場内の子どもたちやお年寄りを大いに楽しませた。



●会場を盛り上げた矢板市キャラクター「ともなくん」

学校祭実行委員会を中心に二年生がリーダーシップをとり、学生が一丸となって企画を進めた。企画展示は「妊婦体験」、「老人体験」、「身体計測」、「AED」等、模擬店は「玄米ご飯カレー」、「パンケーキ」、「けんちんうどん」、「グリーンスムージー」、「豆乳バナナジュース」等、学年の垣根を越えた混合チームで各ブースを盛り上げ、これまでで最高の来場者数となった。

(事務部 石崎友子)



「その方法で結論を導き出せるのか」など質疑応答も活発に行われた。

(福祉支援工学分野 准教授 東島弘子)

本学の特徴として理学療法、臨床心理、看護など多彩な分野があるため、報告会は午前九時過ぎから午後六時までの一日がかりになる。院生は一人七分の発表と五分の質疑応答を行う。従来は分野ごとに報告スケジュールがわかれていたが、今回からは、医療経営管理・ジャーナリズム・国際協力、あるいは福祉支援工学と作業療法のように関連する分野の中でのアトラダムな発表スタイルに切り替えた。この結果、

附属病院

国際医療福祉大学病院

病院長 蘇原 泰則



東北大学卒、医学博士。前自治医科大学東北大学科学講座主任教授。元日本呼吸器外科学会会長・理事・終身指導医。

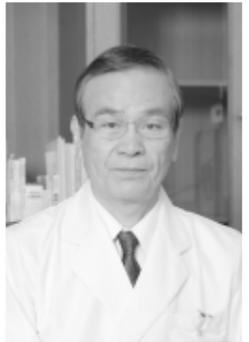
二〇一四年にあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

当院は、昨年より総病床数三五三床、常勤医師数一〇〇名、総職員数九五〇名となり、四五の診療科と一二の診療センターで活発な診療活動を行っております。診療実績をみますと、一日外来患者数九〇〇名、一か月入院患者数六五〇名、手術件数二五〇件、救急受け入れ数二〇〇件ほどで、栃木県北地域有数の総合病院の一つとなりました。昨年二月に開始した心臓外科手術、六月に開始したダ・ヴィンチ手術は事故なく順調に手術数を伸ばしており、昨年から着手したPET・CT、リニアック、手術室を備えた新棟の建設も順調に進んでおります。このように国際医療福祉大学病院は昨年、順調に発展いたしました。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

病院長 早川 正道



慶應義塾大学卒、医学博士。防衛医科大学学校名誉教授。前防衛医科大学学校長・病院長。日本泌尿器科学会指導医・専門医。

当院は厚生連塩谷総合病院を継承し、江口光興前院長の下で順調に業績を伸ばしてまいりましたが、昨春、整形外科医と循環器内科医等が退職し、入院患者数が減少した時期もありました。私は四月に着任し内部組織の活性化や病棟の再編に努め、さらに医師確保に奔走する一年で、さらに医師確保に努力を加え、診療科の増設、病床の拡充、回復期・療養病棟の病床利用率改善や通所リハビリテーション業務の開始等が相まって、業績は改善しつつあります。今年度は、循環器内科医の着任に加え、外来棟の拡充や外来化学療法室の整備、そして通所リハビリテーションセンターの開設等が予定されています。グループ全体の支援に感謝しています。今後も急性期医療から在宅医療まで、幅広く継続的に患者さんを支援できる、地域の中核病院としての体制を整えてまいれる所存です。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

病院長 小川 聡



慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学名誉教授。元日本循環器学会理事長、元日本心臓病学会理事長。

早いもので、新病院開設から二月は丸二年が経とうとしております。この間、職員一人ひとりが高い意識を持ち、よりよい医療をご提供すべく努めてまいりました。おかげさまで、入院・外来患者数とも順調に推移しております。新病院開設時より毎月開催している健康セミナーも、患者様からは「医療現場の最新の話題を医師から直接聞ける」と好評で、親しみやすく地域に根ざした医療のご提供に役立っております。また、当初より力を入れている予防医学分野では、今年四月より心臓ドックを新たに開設することが決定いたしました。さらに今年最大の目標である「国際的に開かれた病院」の大きな一歩として、国際医療機関認証「JCI」を当グループで初めて取得するべく、プロジェクトチームを立ち上げました。これは皆様のご協力なくして実現することはできません。本年も、なお一層のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

病院長 寺岡 慧



東京大学卒、医学博士。東京女子医科大学名誉教授。前日本移植学会理事長。日本外科学会指導医・専門医、日本透析医学会指導医・専門医。

当院は静岡県東部における中核的病院のひとつとして、地域医療を支えるべく、PET・CTをはじめ高度な医療機器を備え、充実したスタッフのもとで質の高い医療をご提供しております。また、急性期から回復期、社会復帰、在宅支援までシームレスな医療福祉サービスをご提供すべく、回復期および訪問リハビリテーションを開始しております。このたび、県保健医療計画における熱海伊東医療圏の基準病床数の見直しにより、当院は六四床（一般病床五〇床、療養病床一四床）の増床が認められ、新棟開設の暁には三三三床となる予定です。これからも本学の理念である患者さん中心の「チーム医療・チームケア」を根幹に据え、患者さんの権利の尊重、プライバシーの保護に努め、十分なご説明のうえで安心してご利用いただける医療機関をめざし、職員一同、一丸となって全力を尽くしてまいれる所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

社会福祉法人邦友会

国際医療福祉リハビリテーションセンター

センター長 下泉 秀夫



徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害者医療福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。

臨床医学研究センター

社会福祉法人邦友会

新宿けやき園

施設長 杉原 素子



お茶の水女子大学大学院修士課程修了。米田作業療法士資格取得。前日本作業療法士協会会長、国際医療福祉大学大学院副大学院長。

昨年は九月に、栃木県で「第三九回日本重症心身障害者学会学術集会」を開催いたしました。おかげさまで、全国から約一千名の方にご参加いただくことができました。法人本部、大学の先生方、センターの職員のご協力に感謝いたします。今年度は、当センターが開設されてから一五年目の年にあたり、次の一〇年に向けて、ハード面、ソフト面の両面において、皆で知恵を出し合い、基本計画を立て、当センターの新たな飛躍の第一歩となる年にと考えています。本年もどうぞ、よろしくお願いたします。

臨床医学研究センター

山王病院

病院長 堤 治

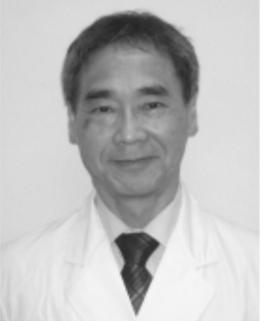


昭和二二年の創設以来、オープンで安心な、思いやりのあるプライベートホスピタルの先駆的な存在としてその歴史を歩んでまいりました。おかげさまで昨年一〇月には、隣地約四〇〇坪で新棟建設に着工することができました。二〇一四年度内には、二九床の産科診療所の新規開設とNICU、ICUの整備により、さらに充実した施設となる予定です。

臨床医学研究センター

化学療法研究所

病院長 西野 卓



昨年は、当院にとつていくつかの大きなできごとがありました。まず、四月にはこれまでの社会的貢献が認められ、公益財団法人の認定を受けました。七月には、新病棟が完成し、旧結核病棟および療養病棟の新病棟への移転、回復期リハビリテーション病棟の開設がありました。さらに十一月には、予防医学センターが開設するに至りました。

臨床医学研究センター

高木病院

病院長 岩坂 剛



病院長就任三年目になる今年は、大きな変革の年になりそうです。最大の動きは、急性期の新棟建設で、八月には竣工予定です。救急外来・ICUの拡充、HCUの新設、手術室の増室・拡充、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の導入、そして外科系病棟の集中化が実現します。

昨年、当園は前年度のサービス水準到達（職員数および利用者数）をめざして職員一同懸命に働きました。そして、どうにかそのレベルに達する見通しが立ち、新しい年を迎えることができました。当園はいつもピカピカです。「きれいですね」と訪ねてくる方々が言ってくれます。清掃職員の方々の努力の賜物です。平成二六年度は、サービスの量の確保はもちろんです。サービスの水準がピカピカになるように個別ケアを特性とする個室ユニット型のケアに磨きをかけます。そして近い将来、ユニットリーダー実地研修施設に選定されるよう頑張ります。

地域医療への貢献と国際医療福祉大学の臨床医学研究センターとしての機能をますます高めてまいりますので、ご支援ご鞭撻をお願いいたします。今年もどうぞ、よろしくお願いたします。

これで予定された当院の改善計画がすべて終了したことになりました。これらを基盤として、本年は当院が大きく飛躍する年になると信じています。今年も皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

一方、福岡県がん診療連携拠点病院の指定をめざし、緩和ケア病棟の新設、放射線治療センターに最新のリニアック装置の導入等、がん診療の充実を図ります。さらに昨年九月には循環器センター長に横井宏佳先生が着任され、診療体制が充実しました。今年もどうぞ、よろしくお願いたします。

附属病院 国際医療福祉大学塩谷病院

地域貢献活動「手洗い教室」

当院では地域貢献活動の一環として、看護部を中心に地元小学校・幼稚園・保育所等を訪問して「手洗い教室」を実施している。これは、平成二十一年に当院から地元矢板市の教育委員会に地域活動の申し出をしたことから始まった。



●ブラックライトの当たった手を見てびっくり!

毎年好評を得ていて、昨年は矢板市だけでなく近隣の町の教育委員会からも依頼があり、小学校九校、幼稚園三園、保育園七園に訪問し、合計一〇九二名の子どもたちが参加した。下野新聞やちぎテレビが取材に訪れニュースで取り上げられるなど注目度が高い活動であり、今後も続けて実施していきたい。

(総務課)

附属病院 国際医療福祉大学病院

ばーすはうす

出産一〇〇人記念同窓会を開催

院内助産施設「ばーすはうす」は、国際医療福祉大学病院内に平成二十三年四月に開設され、昨年九月一日に一〇〇人目の出産を迎えた。それを記念して二月七日に当施設利用者の同窓会を開催した。小雨が降る寒い日だったが、ママと赤ちゃん、ご家族など一三〇人を超える方々が集まった。ママたちは受付で出迎えたスタッフとの再会に歓喜し、スタッフは赤ちゃんの成長に感動。興奮冷めやらぬまま会場に入り、「プロのカメラマンさんによるご家族ごとの記念撮影」、「ベビーマッサージ」、「乳がんセルフチェックのお話と模型体験」、「一〇〇人出産達成記念」だるまさん「の目入れ」など盛りだくさんの企画で、心温まる会となった。



●100人目の赤ちゃんのご家族。兄がだるまに目を入れた。

スタッフ一同、「ばーすはうす」を支えてくださる方々に感謝の気持ちを忘れず、これからも一生懸命頑張っていこうと再確認した一日だった。

(看護師長 間中伴子)

附属病院 国際医療福祉大学三田病院

「がん診療に携わる医師に

対する緩和ケア研修会」を開催

一月三〇日と二月一日の二日間にわたり、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を当院の三田ホールで開催した。当院では東京都の認定がん診療病院として質の高い緩和ケアをどの診療科でもご提供できるように、こうした研修会を毎年開催している。



●講義に熱心に聞き入る参加者

今回は、当院の医師九名、外部医療機関の医師五名、作業療法士一名の合計一五名が受講し、講義形式とグループワークでの研修を行った。受講者からは「参加型のロールプレイ研修で考えさせられたことを、臨床の現場でぜひ生かしたい」、「緩和ケアに対する医療的な知識、対応の仕方がとても勉強になった」といった声が聞かれ、緩和ケアに対する考えを深める非常に良い研修会となった。

(総務企画課)

附属病院 国際医療福祉大学熱海病院

訪問リハビリテーションが

本格稼働

当院では、昨年七月より訪問リハビリテーションを開始した。

ご利用者の状態にあわせて身体的・精神的ケアを行うことにより、在宅で自分らしい生活を送っていただく「日常生活における自立」や「社会復帰」をめざしたりハビリテーションを行っている。対象は、外来や退院後に自宅でのリハビリテーションを希望する方が中心である。



●新しく専用の車両が導入された

熱海市は人口の約四割が六五歳以上という超高齢地域であり、また海と山に囲まれ、坂道等が非常に多い立地でもある。そのため、訪問リハビリテーションは本地域において非常にニーズが高く、開始以来、多くの方々より問い合わせをいただいている。今後もこのニーズに応えるべく、スタッフの増員も含めて、ますますの拡充を図る予定である。

また、地域の皆様によりよい医療をご提供できるよう、より一層努力していきたい。

(総務課)

国立ヤングン第一医科大学および
国立ヤングン医療技術大学との
学術交流協定締結

わが国による経済・医療分野等における国際協力が積極的に行われ、日本企業の進出も目覚ましいミャンマー。本学は、そのミャンマーからのIUHW奨学生を受け入れや国立ヤングン看護大学との学術交流協定の締結等、すでに積極的に交流を行っている。

この度、同国との医療分野でのさらなる交流を図ることを目的として、新たに国立ヤングン第一医科大学および国立ヤングン医療技術大学との学術交流協定を締結した。調印式は昨年一月一六日、ミャンマーの首都ヤングンで執り行われた。本学からは高木邦格理事長、佐藤禎一学事顧問、高木ひろ子理事が出席。すでに協定を交わしている国立ヤングン看護大学の学長にも御臨席いただき、調印式に引き続き開催した意見交換会の場で和やかな雰囲気の中、交流推進に向けて活発な意見が交わされた。



●調印式を終えて三大学関係者とともに

今後は同国への本学学生の研修派遣や、三大学の学長を日本に招聘し、本学主催の医療シンポジウムを開催することなどを予定している。(東京事務所 加瀬文彦)

大田原キャンパス 国際室

国際交流親善パーティー

二月三日、毎年恒例の国際交流親善パーティーが大田原キャンパス那須アスリーナ二階の学生ホールで開催された。津久井富雄大田原市長、後藤秀雄大田原市国際交流会会長、大津健一アジア学院校長およびアジア学院の学生の方々、東芝メディカルシステムズ総務部の森田様、成瀬様にお越しいただき、本学からは北島政樹学長、丸山仁司副学長、桃井眞里子副学長、佐藤禎一学事顧問はじめ教職員、大田原および小田原キャンパスの留学生など総勢百名以上が参加した。



●留学生による手品披露で盛り上がる参加者

パーティーでは本学放射線・情報科学科の留学生の范さんが所属するジャズ研究部や交響学部による演奏、そして、大学院理学療法学分野の周さんによる中国式茶道の紹介や本学茶道部のお点前披露などたくさん催しがあった。また、後半には即興で留学生による手品披露もあり、大変盛り上がった。留学生と地域の皆様方、また留学生同士の交流が一層深まるイベントになった。(国際室 藤原志保)

大田原キャンパス 国際室

大田原市長と
留学生の懇談会

一月二二日、津久井富雄大田原市長と大田原キャンパス在籍留学生(大田原市奨学金受給一・二年生、一五名)の懇談会が大田原市カシマウエディングリゾートで開催された。留学生からは、奨学金の供与、安価な住居および無料市営バス定期券のご提供等、大田原市からの支援に感謝のことが述べられた。また、大田原市での生活の感想、市に対する要望等もお話させていただき、活発なフリーディスカッションの形で懇談会は進化した。



●大田原市長を囲んでの記念撮影

市長からは、日本という異国で勉強をするにあたって激励をいただいた。本学は、教育がますます国際的になるように、今後も留学生の教育・指導を確実着実に進めていきたい。(国際室 中野由子)

大田原キャンパス
医療福祉・マネジメント学科

大田原マラソンに五七名が
運営ボランティアとして参加

一月二三日、医療福祉・マネジメント学科の教員三名(大西正利准教授、滝澤雅美助教、中田)と一年生を中心とした学生五七名が「第一三回大田原マラソン」(主催：大田原市ほか)に運営ボランティアとして参加した。キャンパス南門前の三四・七km地点と三八・七km地点の二か所の給水ポイントの設営から運営を担当。約四五〇〇人のランナーに熱い声援とドリンクを提供した。



●医療福祉・マネジメント学科の運営ボランティアが設置した給水所を駆け抜ける選手たち

学生からは、「マラソン完走という目標達成のために限界と戦っている姿を目の当たりにして大きな感動を得た」、「ランナーから「ありがとう」と声をかけられてこちらが励まされた」などの感想が聴かれた。本学科の大田原マラソンの運営ボランティアの歴史は第一回にさかのぼり、学科統合前の医療経営管理学科時代からゼミ活動の一環として行っている。(講師 中田健吾)

大田原キャンパス 総合教育センター 語学教育部 TOEIC公開講座

昨年一月から二月にかけて大田原キャンパスにてTOEIC公開講座が開催された。TOEICは大学生だけでなく幅広い年齢層に支持されている英語能力試験で、この講座には学生、本学職員のほか、近隣にお住いの方々にもご参加いただいた。四回の講義ではテストの概要、受験のテクニック、TOEICで頻りに出題される語彙や文法を学習、最後に本学主催のTOEIC P試験を実施した。TOEIC公開講座は今回が初めての開催だったが、約40名の受講生からは「内容に満足している」との感想をいただき、次の開催を望む声もよせられた。



●CALL教室での講義の様子

今後このような講座を継続して開催していく予定で、英語に興味のある方やTOEIC受験に向けて準備を希望される皆さまのご参加をお待ちしている。

(講師 齋藤智恵)

大田原キャンパス 視機能療法学科 携帯型脳波計を活用した 地域連携事業の展開

平成二五年度文部科学省私立大学等教育研究活性化設備事業に本学から申請した「脳波計を活用した高校・大学連携教育の充実」が採択された。これは地域のお子様から高齢者までのさまざまな年齢層の皆様を対象に、携帯型の新しい脳波計を用いてリアルタイムで脳の反応を測定し、脳のはたらきを実践的に学ぶことのできる環境を創出するものである。これまでの脳波計は大型で



●右が携帯型脳波計

使用環境が限られていたが、わずか三〇〇グラムの小型で高性能な脳波計を整備することにより、学外など場所を選ばずに計測が可能となった。この事業は参加者の知的好奇心を刺激して科学に対する興味・関心を醸成し、地域全体の科学的リテラシーの向上をめざすことを目的としている。これまでに本学が行っている高大連携授業や幸齢者スクール、キッズスクールなどで最大限に活用して事業を展開する計画である。また、このほかに本学の学生教育や研究場面に活用することで、近年飛躍的な進展を遂げている脳科学研究を通じて臨床とのつながりや発展性を実践的に学修する機会を提供していくものである。

(准教授 内山仁志)

大田原キャンパス FD*委員会 本校初の「学生が選ぶグッドティチャーング賞」発表



本学では教員の資質や教育力の向上を目的に、開学以来FD活動を展開しており、大田原キャンパスの学部教育では、今年度より「学生が選ぶグッドティチャーング賞」を導入した。学生によるアンケート評価をもとに、最高得点を獲得した科目を担当した教員に与えられるもので、昨年度の授業に対し、総合教育科目、専門基礎科目、薬学部・保健医療学部・医療福祉学部の専門科目から各一科目を選出した。

(FD委員会委員長 城間将江)

受賞者と

授業で特に工夫している点

総合教育科目「化学」

渡邊敏子教授 (薬学部 薬学科)

・学生生活に関わるアナウンス【三〇五分】(月一回 Student Support Timeの実施)
・前回の授業の復習【五〜七分】: 前回プリントの概略と、重要ポイントの確認。
・授業: 書き込み型プリントと教科書中心で、板書で説明する。文字サイズは10cm以上で書き、全員がノートに写せたか確認してから黒板を消す。

・演習や小試験: ミニテストは五回、理解度確認試験は一回実施。【五〜五分】

・まとめ【二〜三分】: 最終回は全四回分のまとめをプリントにして解説。

大田原キャンパス 医療福祉・マネジメント学科 国家試験合格壮行会

一月五日、国家試験を間近に控えた医療福祉・マネジメント学科四年生を対象に、国家試験合格壮行会・直前集中講義が行われた。

壮行会では、三年生有志から四年生へ国家試験合格の願いを込めて、応援メッセージが書かれたお菓子や合格鉛筆などの合格祈願グッズが一人ひとりに手渡された。試験会場に持っていきけるようなグッズもあり、三年生は四年生に想いが届くように真剣にメッセージを書き込んでいた。三年生からの応援エールの場面ではコントに見立てた応援メッセージもあり、四年生に笑顔があふれ、張り詰めた雰囲気が一時的に和やかな雰囲気となった。三年生からの熱い応援を受けて、四年生はさらに国家試験合格への意気込みを増しているようだった。



●3年生から4年生へ応援メッセージを送っている様子

(助手 武田真理子)

専門基礎科目「人間発達学」 谷口敬道教授 (保健医療学部 作業療法学科)

履修対象の一年生(後期)が、リハビリテーションにおける本科目の位置づけを理解できるように、他科目および臨床教育との関連性、自らの臨床の経験を毎時間説明し、学生の動機を高めるように工夫。

・知識として暗記すべき事項、知識として考え方を理解すべき事項を明確にわけて教授。
・毎回、講義開始時に講義のポイントを口頭伝達・書き取り、次回講義時に確認。
・パワーポイントは使用しない。配布資料は最小限に留め口頭で教授し書き取り促進。

薬学部科目「薬物治療学Ⅱ」

原明義教授 (薬学部 薬学科)

私の担当する臨床薬理学や薬物治療学の教科書には、病態生理、治療薬、薬効機序、副作用など極めて多くの事項が記載されており、それに圧倒される学生が多いと思う。そこで授業では、教科書を参考程度に留め、重要な薬物や項目を纏めた授業プリントを作成・配布し、そのプリントの内容に沿って進めている。とくに、プリントには図や表を多く取り入れるようにし、また画像や動画などはパワーポイントを用いて視覚に訴えることで、学生にとって理解しやすい授業になるよう心がけている。

保健医療学部科目「生活技術学」

下井俊典准教授 (保健医療学部 理学療法学科)

・協同学習 (cooperative learning) 形式による講義: 高等教育における能動的な学習、および理学療法士のコンピテンスにおけるコミュニケーション、情緒、価値観の獲得が

医療福祉学部科目 「医療福祉マネジメント論」 中田健吾講師 (医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科)



●(左から)下井准教授、北島学長、谷口教授

・明確な専門領域を持つ医療専門職とともに、行う関連職種連携ワークや実習での「学生自身(本学科学生)の役割」を意識させる。「医療事務」以外の「マネジメント専門職の役割」を理解させるのに、「マネジメント」(ピーター・D・ドラッカー、二〇〇一年)、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」(岩崎夏海、二〇〇九年)を活用する。

医療福祉学部科目 「医療福祉マネジメント論」 中田健吾講師 (医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科)

・毎回、「もしドラ」で描かれていた具体的な「マネジメントの役割」について、講義グループワーク(課題設定&ソリューション)、フィードバックという三部構成で進行する。



本学では保健医療分野でリーダーシップを発揮できる人材を育成するためアジア諸国の学生を対象とした奨学金制度を設けています。今号では、奨学生としてミャンマーから来日した大学院生三名を紹介いたします。

Nwe Ni Thein (ヌーニ・ティン)

保健医療学専攻・理学療法学分野・修士課程一年
ミャンマーのヤンゴンの出身です。ヤンゴンは国内最大の都市です。アウンサンスーチーの父親を記念したBogyoke Aung San 公園やKandawgyi 湖などが市民の憩いの場として親しまれています。その他、Bogyoke Aung San市場が有名です。観光客も多く訪れます。

今日は、私たちの国の言葉を二つ紹介します。Min Ga Lar Par (みんながとう)と Kyae Zu Tin Par Tae (ありがとう)です。みなさん、ミャンマーにいらっしゃる機会がありましたら、ぜひ使ってみてください。

母国では、理学療法士として病院で働いていました。将来も研究を続けたいです。

Aung Thiha (アウン・ティハ)

保健医療学専攻・病理診断学分野・博士課程一年
マンダレーの出身です。マンダレーはヤンゴンに次ぐ第二の都市です。ヤンゴンの有名な食べ物をご紹介します。食事には、Nangyi というカレー味の米粉の麺が、デザートにはHloe という

Nyo Mi Swe (ノミ・スエ)

保健医療学専攻・理学療法学分野・修士課程一年
私もマンダレーの出身です。マンダレーはビルマ最後の王朝の首都でした。その最後の王朝の宮殿だった Mya Nan San Kyow がとても有名です。宮殿からはマンダレーヒルと呼ばれるきれいな山を見渡すことができます。この山は、今では市民の憩いの場となっています。その他、Mahamuni 寺院など多くの

仏教寺院があります。母国では大学の教員として働いていました。薬学の研究を進め、帰国後は漢方薬の創業に携わりたいと考えています。



●(左から)ティンさん、ティハさん、スエさん

Foreign student communication

留学生紹介コーナー

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」 社会人が学びやすい3つの特長

- ① **キャンパス** 大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。
- ② **カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
- ③ **同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS ホームページで、大学院紹介ムービーを公開中。大学院総合パンフレット、分野のパンフレットもダウンロード可能です。

- ホームページはこちら：<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>
- Facebookはこちら：<https://www.facebook.com/iuhwgs>
- Twitterはこちら：https://twitter.com/iuhw_grad

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL: 0287-24-3200)

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

<p>● 理学療法分野 第47回日本理学療法士協会全国学術研修大会(鹿児島)</p> <p>● 作業療法分野 作業療法フォーラム2012、第51回作業療法全国研修会(岩手)</p> <p>● 言語聴覚分野 摂食・嚥下 リハビリテーションの実際</p> <p>● 介護・福祉分野 自立支援型ケアマネジメント・ 自立支援介護2013</p>	<p>● 医療・福祉・経営実務 経営者のための医療政策の潮流講座2</p> <p>● 厚生労働省情報 厚生労働省障害保健福祉関係主管課長会議(11月11日開催) ※無料配信</p> <p>● 受験講座 介護福祉士国家試験 実技試験対策DVD (全2巻10,500円) 好評発売中! ※インターネット 配信版もあります。</p>	<p>● 乃木坂スクール 遺伝子診断、治療とその問題点</p> <p>● 情報BOX 納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)</p>
--	--	--

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

主な配信番組 ● 大学授業・副教材
教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講座、トップクラス講義、関連職種連携論、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 96号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

【大田原キャンパス】 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
【小田原キャンパス】
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500
【福岡キャンパス】
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805

【大川キャンパス】
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

Vol.2

九州支部会・総会開催

平成二五年一月七日、二時三十分より国際医療福祉大学九州ブロック会総会を開催いたしました。

今年度から福岡看護学部と同窓生も加わったことで、大川キャンパスと福岡キャンパスを遠隔システムで繋いだ総会となりました。総会終了後は、各学科会主催の分科会へわかれて、学部の先生方による講義や同窓生による症例発表会、内容の濃い勉強会となりました。



● 役員紹介、活動報告、次年度以降の同窓会組織説明という内容で無事終了することができました。幹事紹介をする江里口会長(左端)

PT学科会(報告・幹事 山内亮磨)

Open Ended Alumni Association (隔たりのない開かれた同窓会)というスロガンのもと、経験年数の壁を越え、治療対象者との向き合い方を考える会を開催しました。分野の違う症例を参加者全員で検討し、意見を交換することができました。また、翌日には講師に黒澤和生学科長をお招きし、研修会を開催しました。

OT学科会(報告・幹事 安武哲宏)

各期の同窓生の症例発表と、在校生の海外研修発表を行い、卒業生と在校生の交流も行うことができました。終了後は、先生方にもご参加いただいた懇親会を開催することができ、充実した一連の会となりました。

ST学科会(報告・幹事 西村明恵)

深浦順一学科長から「若い言語聴覚士へ伝えたい事」というテーマで講話をいただき、「生懸命遊び、よく働き、よく学ぶ」との言葉をいただきました。また、懇親会に参加された先生から「学生の頃は、教師」と生徒「だったけれど、今は同じ言語聴覚士として、先輩」と後輩「だから相談でも何でもしにきてください」とのお言葉をいただきました。会を運営くださった同窓会役員や先生方に感謝と御礼の言葉を伝えたいです。

NS学科会(報告・幹事 福田美幸)

福岡看護学部の初めての同窓会には、卒業生二二名が参加しました。斎藤学部長の「新人看護師へのメッセージ」というテーマでの講話と卒業生四名に



● 福岡看護学部第1期生同窓会現状報告会では就職後の悩みや不安を全員で共有することができました。

よる現状報告会を開催し、学科会後半では、ビッグ大会や在校生との交流の時間を設けました。

同窓生通信

昨年三月に卒業したばかりの福岡看護学部同窓生に原稿をお寄せいただきました



高木病院は、病床数五〇六床、職員数二一九〇名(平成二五年四月現在)、地域医療の最前線を担う急性期型病院であり、「生命の尊厳、生命の平等」の理念のもと地域に根ざした診療を提供している病院です。昨年の七月より、新棟となる地上八階立てのG棟の建設が始まり、八室の手術室や日本国内ではまだ導入台数の少ない手術支援ロボット「ダヴィンチ」を設置します。また、急性期医療に対応する設備を整えており、今年秋に完成予定です。

昨年福岡看護学部より六人の仲間が入職しました。全体では七二人の新人看護師が入職し、日々情報を共有しながら業務に励んでいます。私の病棟は腎臓内科・消化器内科です。透析患者様の看護が主であり、二〇床の透析が行えるF棟を併せ持っています。業務内容は人工血管(シャント)を造設する患者さんのオペ出しや透析前後の状態管理、患者様のケア・処置などをスタッフ全員で協力しながら実施しています。看護師という職業は業務も多忙で

かもしれないですが、患者様や家族とのかわりも多くやりがいのある職業だと思えます。みなさんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



1期生 萩原悠介さん
福岡山王病院看護部
看護師 ICU勤務

自分で行動できる一人前の看護師になり、最終的には管理職に就くことが目標です。そのため、いろいろな経験を積んで自分の興味のあることや好きなことなど自分にしかない強みを見つけていきたいと思っています。働くうえで大切だと気がついたことは、自分から発信していくことです。自分に足りない部分が多くて何から手を付けていいのかわからなくなる日もありますが、ひとつずつ乗り越えていきます。

「同級生へ」僕はみんながいてくれたから一生忘れられない四年間を過ごすことができました。看護師にもなれたと思います。本当に感謝しています。みんなが頑張っているところを想像して僕も日々頑張っています。次にまたみんなに会えるのを楽しみにしています。

「在校生へ」講義やテスト、実習、国家試験、卒業研究でみなさん大変だとは思いますが、でも、やるしかないから、いっぱい勉強してその分息抜きもしてください。仲間を大切にしたい今しかできないことを一杯やってみて、勉強も実習も国家試験も卒業研究も息抜きも、全部楽しんでください。やるからには楽しんでみましょう!



先輩に聞く 国家試験受験の傾向と対策

PART
3

昨年が続いて今年で3回目。「学生が学生に取材する」をコンセプトに、後輩が先輩に国家試験対策についてインタビューしました。受験を目前に控えた4年生から、来年は同じ状況を味わっている3年生に、この1年間の過ごし方を伝授します。



保健医療学部 理学療法学科 School of Health Sciences / Department of Physical Therapy



回答者 4年生
佐々木洋平さん(左)
栃木県立黒磯高校出身
中村康平さん(右)
新潟県立高田北城高校出身

第49回 理学療法士国家試験

2014年2月23日
インタビュー 2013年12月27日



インタビュアー 3年生
伊藤恵太さん
栃木県立黒磯高校出身
小松香澄さん
茨城県立水戸第三高校出身

Q 国試を意識し出したのはいつ?

中村 5月初めに実習が終わり、5月末に学科の模試が始まったあたりから。
佐々木 私は6月に就活を始めてから。

Q 国試と就活の両立は?

佐々木 それぞれにメリハリをつけるのが難しかったので、一つひとつ整理していくといい。

Q 具体的な勉強方法は?

中村 とにかく問題を解いて、見直しをすることで知識を増やしてきた。

佐々木 私はグループで勉強していました。ひとりだと限界があるし、聞きたいことをすぐに聞けるのは友だちだから。



Q 苦手科目の克服法はありますか?

佐々木 テストで何が苦手なのかかわかったら、専門の先生に聞きにいきます。
中村 苦手な分野を集中してやる日、得意な分野を伸ばす日を作ったこともあった。

Q 1日の勉強時間は?

中村 夜の10時まで学校に残って、帰ってからもちよっとやるとか…。
佐々木 みんな10時間くらいはやってるんじゃないかな。

Q 暗記のコツとかありますか?

佐々木 語呂合わせが一番有効かな。先輩が作ってくれたものもあるし。
中村 どんなことばでも、覚えちゃえばこっちのものだしね。

佐々木 あとは、実際に五感を使ったり、模型を見たり。

Q 模試を繰り返して、成長している実感を得るのはどんな時ですか?

中村 やっぱり、前よりも確実に○の数が増えていると、「よしよし」と。

佐々木 点数の波がなくなって安定してくると実感しますね。

Q 今考える自分の合格率は?

中村 いっしょに。決まってるでしょ。

中村・佐々木 セーの、100%!

伊藤・小松 自信あるんですね。うふふ。

●佐々木さんと伊藤さんは同じ高校の先輩と後輩。それもあってか、学年のつながりを感じるインタビューでした。ナースになりがちなこの時期に、自分の合格率を宣言させてしまうところにも、学科の雰囲気がうかがえます。

保健医療学部 放射線・情報科学科 School of Health Sciences / Department of Radiological Sciences



回答者 4年生
渡邊詩織さん(左)
茨城県立下妻第一高校出身
高見光咲さん(右)
函館市立函館高校出身

第66回 診療放射線技師国家試験

2014年2月20日
インタビュー 2013年12月18日



インタビュアー 3年生
石川知里さん
栃木県立宇都宮中央女子高校出身
嘉納匠さん
東京・聖徳学園高校出身

Q 国試の勉強はいつから始めましたか?

渡邊 2月の初めにあった1回目の実力試験が終わったところから。

高見 今年から実力試験の解説ノートを提出することが決まりになって、解き直しを始めたころ。私は2回目までは全然勉強してなくて、点数にショックを受けて立て直していった感じだった。

Q 卒研・就活などがあるなか、国試対策にあてた時間はどのくらいですか?

高見 前期は解き直しをやるくらい。

渡邊 そう。前期は実験と授業でほとんど手いっぱい。それに卒研、第1種放射線取扱主任者試験の対策とかが入る。

高見 夏休みが終わってから本格的に時間をあてられるようになった。

Q どんな勉強から始めましたか?

渡邊 解き直しのノートですね。その問題だけでなく、関連するところを加えてどんどん広げていった。

Q 3年生までにやっておくといいいことは?

高見 臨床や画像の問題は、実習でやったことが実力試験で使われることはよくある。

渡邊 実習ノートを読み返すと、こんなこともやっていたのかと役に立つ。実験も案外嫌々やってるけど、実力試験に計算がそのまま出ることあるから、無駄にしないで振り返っておくといいい。

高見 実験補助は大変だけど、その内容はとても役に立つ。(でも、本当に大変!)



Q 1日の勉強時間は?

高見 1日何時間と決めていたわけではなく、実力試験の2週間くらい前からはかなり集中してやった。

渡邊 気分転換と集中の繰り返し。

Q 覚える量をこなす勉強方法は?

渡邊 はじめのころは、過去問をめくって、よく出る問題から覚えていった。

高見 模試を重ねて、いろいろな問題に触れていくことで知識を増やしていった。

●インタビュアーは、この先1年間の勉強や生活のベースが気になり、それに向けた現在の自分の状態にも少し不安を感じていたようです。この先輩の体験談が良いイメージトレーニングになったでしょうか。